

高知 学園 校友会報

校友会報第6号

平成24年10月1日発行

発行者 校友会事務局

〒780-0956
 高知市北端町100番地
 Tel 088-840-1111
 Fax 088-844-7578
 E-mail:gakkoujimu@kochi-gc.ac.jp
 題字 増田和剛(昭和63年卒)

平成二十四年 校友会総会を終えて

代表幹事 昭和51年卒
 町戸 徹

本年は、私の学年の他に昭和41年・61年・平成8年卒業生で準備させていただきまし。各学年の幹事・世話人の方々には名簿が不十分な中、多くの方に声をかけてもらいました。大変なご苦労だったと思います。おかげ様で盛会に終えることが出来ました。心より御礼申し上げます。



さて校友会の目的は、会員相互の親睦はもちろんの事ですが、併せて母校の発展に寄与するとなっております。この為事業として学校に対して文化行事の助成、クラブにも設備・備品購入の助成を行なっています。



関西地区校友会報告(2012年)

平成24年8月25日(土)、関西地区校友会を大阪天満橋OMビル内の中華飯店で開催いたしました。支部組織の強化・充実という目標実現のため、数年ぶりに再開された昨年引き続き、校友会本部と関西支部が連携し開催に漕ぎ着ける事ができました。現在、関西在住の校友は、

600名に迫ると推測され、800名に迫ると推測され、630名の在籍調査を試み、出席者は昨年同様、昭和30年代卒が中心であり、昭和40年代卒以降の校友を集めることが今後の課題の一つであると痛感しました。

当日は、来賓として高知県大阪事務所 友草正弘次長をお招きし、高知から森光俊夫会長、高橋啓明中高校長、久保明弘中学教頭、甲藤彰男先生等にご出席いただき、甲藤先生からは野球部長時代等の裏話や進路開拓のエピソードなどの講演をいただきました。また、水中・水辺のフォトジャーナルリストとして国内外で幅広く活躍中である高野弘氏(45年卒高知県観

校友会報に寄せて

校友会会長 森光 俊夫

残暑は例年に比べ厳しい毎日が続きますが朝夕は秋の気配を感じる季節になりました。校友の皆様にはお変わりございませんか。今年も編集委員の方々のご努力で第六号の会報を皆様にお届けできることになりました。

こうして継続、発行できるとに感謝致します。過日、九月八日(土)に校友会総会が開催されました。退職された先生方、教職員の方々、多数の校友が相集い、盛やかな会になりました。これも学年幹事、各クラブの役員、校友会役員とそれぞれの役割、分担によって、多くの校友が参加できる校友会になりました。このように校友会活動が結果として盛上ってきたのは、皆様方の母校に寄せる関心の高まりであり、校友会が互いの親睦を図り、校友同志の友情、連帯の場であることの証しであると思えます。校友会が、今後とも隆盛で、母校と共に発展してゆくことを願う次第であります。校友会報はそれぞれの部門を卒業した校友が、青春の往事を偲び、母校の近況を知り、又旧師や友の懐旧にふける、そのような校友会報であって欲しいと願うのであります。

この会報が母校と校友同志を結ぶ懸け橋となり、母校発展に寄与する会報となりますことを願ひ、皆様方がいつ迄も健勝でありますことを祈念致しましてご挨拶と致します。

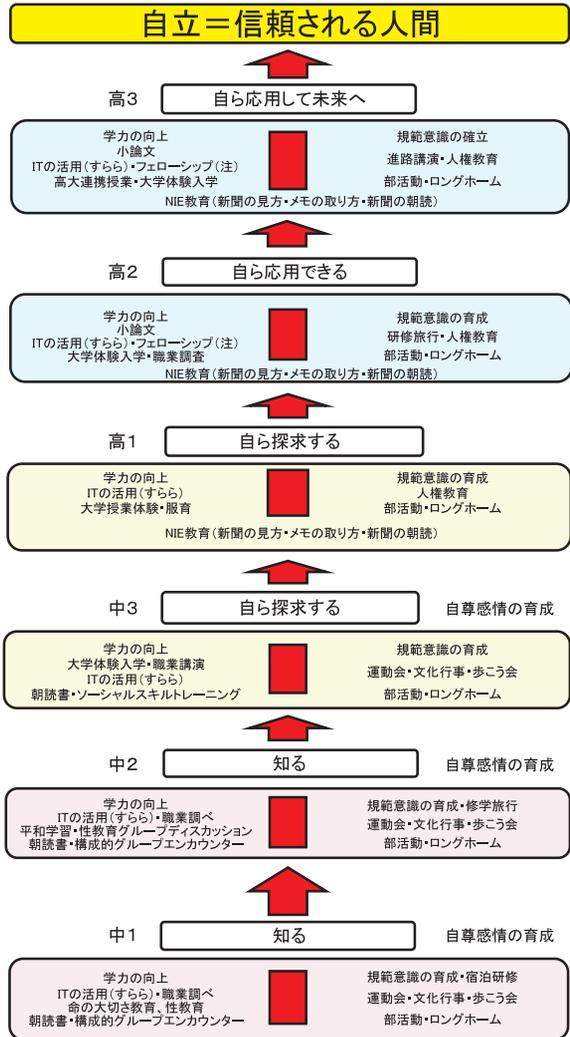
文責

関西支部長
 福本 健夫

高知中・高の目指す自立教育の紹介

高知中学高等学校の目指す自立教育

コミュニケーション能力の育成・意欲の育成を柱



(注)フェローシップ・・・高知学園短期大学・高知リハビリテーション学院への進学をフォローするシステム

いま、中高では、高知学園の精神である『人に信頼される人間の育成』をめざし、コミュニケーション能力の育成・意欲の育成を柱とし、日々の授業・学校行事・部活動を通して体系的な自立教育に取り組んでいます。

まず、中1・2年生では、自らを知り自尊感情育成のために、命の大切さ学び、各人の違いを認め合う平和教育や性教育、中3・高1年生では、自ら探究するために、職業講話、大学体験入学、授業体験学習、高2・3年生では、自ら応用して未来のために、N

IE教育(新聞の見方・メモの取り方・新聞の朝読)、論文や進路指導などに取り組んでいます。この自立教育を通して、確かな基礎学力を定着させ、さらに学力を向上させ、自分自身の考えや思いをまとめ、適切な『ことば』で伝えることができ、また、相手の『ことば』を聴き取り、その思いや立場を理解できるコミュニケーション能力を養成し、自己の将来の自立像の育成を目指しています。この自立教育は学校の教員だけでは行うことができません。特に、中3年生で行います職業

講話は毎回、さまざまな分野で活躍をされている方々からそれぞれの職業の特色、生きがいや苦労話、そして、学生のときに何が必要なのかを熱く語っていただいています。毎年、この講師をお願いするのにも苦労をしています。是非とも学園校友会の方々のご協力が必要です。後輩たちにお力の方々の経験を話していただき、ご指導いただければ学校までご連絡またはご紹介をお願いします。

連絡先
電話 088-840-1111
FAX 088-844-7578

高知中学自立教育担当まで

校友会プログラムに協賛広告を戴いた方々

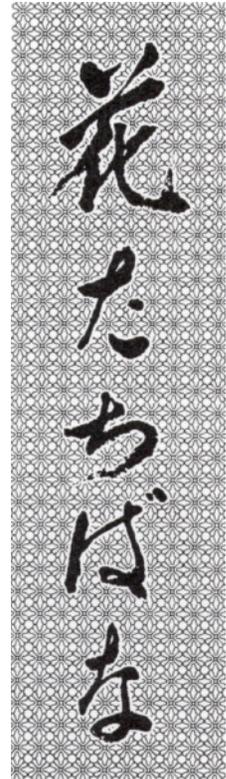


- 旭食品
- 安楽寺
- IZUフードビジネス
- 泉清博士地家屋調査士事務所
- 苺屋
- 伊藤商会
- H S企画
- えおとシステムズ
- オアシス・イラボレーション
- 尾崎塗装工業
- オフコム
- おべんとう太郎
- 関西砕石
- 金高堂
- 国見開発工業
- グリーンフィールゴルフ倶楽部
- 高知学園校友会香美支部
- 高知学園短期大学後援会
- 高知銀行 福井支店
- 高知県文具
- 高知県臨床検査技師会
- 高知事務機
- 高知酒造
- 高知小学校 P T A
- 高知中学・高等学校 P T A
- 高知ユニフォームセンター
- 高知幼稚園後援会
- 高知リハビリテーション学院後援会
- 高知緑地
- こじまや
- コトブキ
- 新中国料理 彩華
- 佐々木歯科医院

- 佐々木歯科診療所
- 三翠園
- サン電気
- サンポー
- 四国運輸せとうち
- 島内書店
- 城西館
- スタジオオカムラ
- セコム高知
- 7 days Hotel
- ダイセイ
- タイヤ館
- 竹田商会
- タナベタイヤ
- 田邊木材
- 田村雄一建築設計事務所
- 土居印刷
- ドコモショップ鴨部店
- 土佐タイプ
- ドーム23
- 西村剛商店
- 日製設備サービス
- ヒロマツ
- Primavera
- 星野酒店
- ホテル日航高知ロイヤル
- ミタニ建設工業
- 八井田歯科医院
- 土佐鮪処 康
- ヤツデ・ファクトリー
- ラフイング
- 隆栄建設工業
- ロイヤル
- 浪漫亭
- 和光不動産

本誌にありがたく
ございました
来年もよろしく
お願いします

(敬称略)



題字 川島源司先生 (元学園長)

同窓会からのお知らせ

— 震災用ヘルメットを寄贈 —

平成24年度同窓会事業を紹介いたします。詳細は同窓会のホームページをご覧ください。特別事業として、本学の防災対策の一環として約800個の震災用ヘルメットを寄贈することになりました。また、今年度インドネシアから来日した3人(看護学科)の外国人私費留学生に対して奨学支援金を支給します。

通年事業として、①同窓会活動の助成として各学科・専攻事業に助成金を支給しています。②スポーツ・文化・社会活動に功績のあった卒業年次生に、同窓会会長表彰(1名)と同窓会表彰(複数)を行い、奨励金を授与しています。③スポーツ・文化・社会活動に功績のあった卒業生には同窓会特別表彰を行います。その他、在学生支援事業として本学の学園祭やよさこい祭りに支援金を支給することや、入学式や卒業式にはスタンド花を贈っています。今後は、高知学園校友会との交流も深めていく方針です。
(高知学園短期大学同窓会事務局)

生活科学学科の同窓会助成活動について

生活科学学科 古屋 美知 (旧食物栄養科第23期卒業生)

同窓会では毎年各学科に対して活動助成金が支給されていますが、この制度をご存じない方も多いのではないのでしょうか。生活科学学科では毎年趣向を凝らした活動を実施していますが、現同窓会の副会長でありZUMZUMの経営者



(写真は平成24年度実施の講演会風景)

でもある濱田さんと一緒に企画した「気をつけていますか健康づくりのための食事バランスガイド活用法」では、高知農政事務所から講師をお招きし、卒業生と在学生が一緒になって食と栄養に関する勉強をすることができました。昼食をとりながらの意見交換も活発に行われ、有意義な一時を過ごす事ができました。参加者も年々増加しており大変好評です。是非皆さんも興味深い企画を考えこの活動助成金に申請してみてくださいいかがでしょうか。

社会と近い医療検査専攻

医療衛生学科医療検査専攻

中村 泰子 (旧衛生技術科第20期生)

医療検査専攻は病院、検査センターなどで活躍する臨床



検査技師を育成しています。昨年度は3月に同窓会の協力を得て、高知県臨床検査技師会の主催のもと3回、学生支援活動(学内で実習)が行われ、医療検査専攻の学生が参加しました。実際に医療現場で働く臨床検査技師の方たちに指導されながら、現場でも行う様々な検査を体験することは学生たちにとって将来へのビジョン確立に大いに役立っています。また、医療検査専攻では、臨床検査技師として県内外で大活躍する卒業生を招き、キャリアアップセミナーを年に一度開催しています。卒業生の熱い講演は学生たちの心を震わせ、「私も卒業後の場に立てるような臨床検査技師になる!」と聴講後、宣言する学生も。県内の多くの臨床検査技師は学短卒業生です。同窓会、先輩方から応援をいただいで今年度も新人技師を輩出します。

歯科衛生専攻の今

医療衛生学科歯科衛生専攻

和食 沙紀 (旧保健科歯科衛生専攻第26期生)

近年歯科衛生士は、歯科医院だけでなく高齢化に伴い病院や高齢者施設などでも必要とされてきています。そこで歯科衛生専攻では、高齢者・障害者に対し、口腔の清掃だけでなく機能や審美性にも対応できるように歯科衛生士の養成に力を入れています。3年制となり従来の教科に加え、口腔ケアや摂食嚥下、運動機

能などの教科が加わり、幅広く活躍できる歯科衛生士を輩出するため、充実した講義・実習の入ったカリキュラムを展開しています。上級生から下級生に歯磨き指導を行う実習などもあり、学年を超えての学生同士の交流もあります。また、卒業生については、生涯学習を通して新しい情報を提供しています。ご参加をお待ちしています。「歯科臨床実習室がリニューアル」平成24年10月から新しく歯科診療台18台にパソコンが設置され、口腔内やレントゲンの映像等、多彩な機能を使用した実習が可能となりました。



今号より
高知学園短期大学
同窓会の会報を
載せることになりました。

卒業生今昔

高知学園を卒業して

高橋 昌明

(神戸大学名誉教授、38年卒)

一九六三年三月、高知学園を卒業し、京都の同志社大学文学部に入学した。あれからまもなく半世紀になる。もともと歴史研究に興味があり、あこがれて歴史と学問の都に行った。大学院修士課程を終了後、七年間の高校教師生活を経て、滋賀大学教育学部に採用される。一九九六年秋からは神戸大学文学部に移り、二〇〇八年三月同大学を無事定年退職した。長い間、平家の研究をやつてきたせいか、本年度のNHK大河ドラマ「平清盛」の時代考証という大役を仰せつかり、毎日結構忙しい。

私の人生は、節目節目で幸運に恵まれたと思う。その最初が高知学園で図書部に入ったことである。そこで本を読むことの楽しさ、文章を書くことの苦しさを知った。

またクラブ顧問の松浦暢先生(英語)をはじめ、図書館に出入りしていた若い先生方に、授業を離れたご指導をいただいた。国語の小松弘愛先生、そして世界史の本田実先生などである。

本田先生は、大学受験に恐れをなし、高卒で普通の就職してこつこつ歴史を勉強する、と逃げる私を追いつめるため、私のためだけの模擬試験を、何度も作ってくださった。先生は担任、いや授業担当教員ですらなかったのに。そうならば、大学を受けますといわざるをえない。それが出発点だった。

四〇歳後半には、日本人が作る世界史辞典には日本史の専門家も必要とのことだ。『角川世界史辞典』の編者の一人になった。同書は二〇〇一年に完成し、それを

久しぶりにお会いした本田先生に献呈できた時は、少しはご恩返しができたと気分になって、晴れがましかった。私にとって高知学園は、なつかしくしあわせな思い出とともにある。

パラリンピックを終えて

高知リハビリテーション学院理学療法学科50年卒小林順一さんは(高知県立障害者スポーツセンター所長) ロンドン2012パラリンピック競技大会日本選手団陸上競技監督として選手36名と共に戦ってきました。

帰国早々まだ疲労困憊の小林さんにパラリンピックについて校友会報に掲載したくお願いしたところ取材という形であればと勤務先にお伺いしました。

小林さんは第2回全国障害者スポーツ大会の監督(よさこいピック高知)、2010年広州アジア大会陸上監督、1988年ソウルと1996年アトランタパラリンピック陸上コーチを務めるなど、国際経験も豊富であり日本の障害者スポーツ指導者の第一人者であります。

障害者スポーツの競技力は前回の北京パラリンピックを境に飛躍的に向上している。それは各国が国家プロジェクトとして障害者スポーツの強化に取り組み、オリンピックもパラリンピックも同じような目線で競技力向上強化に努めている。

日本はまだ国家戦略としてのスポーツ振興が出来ていないため世界との競技力の差がどんどん開いている。日本では文部科学省(オリンピック)と厚生労働省(パラリンピック)の管轄の違いがあり、何故オリンピックとの待遇の差が

あるのかと常日頃訴えている現状でもある。北京パラリンピック終了後、日本身体障害者陸上競技連盟の強化委員長という役職につきロンドンパラリンピックを目指し選手強化の責任者になった。

4年間何をすべきか、まず選手達が安心して競技するための環境整備が必要と考え、サポートスタッフ養成に力を入れて来た。これまでは、現場のコーチだけで強化していたが、身体的ケア、健康管理、栄養管理、心理的な問題等などの専門職の人達がチームを組んで選手をサポートしなければ世界では勝てないと考え、サポート体制を整え合宿や遠征に専属のトレーナーや医師、栄養士が同行することになった。

今回、北京から比べると選手の環境整備等は進んだが結果的に北京大会では、金2個を含めて12メダルを獲得したが、今回はメダル4個と激減したことは、選手育成(世代交代)を含めて、強化体制など次の大会に向けてさらに課題を残す結果となった。

ロンドンパラリンピックは世界164カ国から約670名(選手430名、役員240名)の参加で20競技、503種目で熱戦が繰り広げられた。陸上競技では170種目を9日間の日程で行われ、午前の部10時から13時まで競技が開催されるため、朝7時選手村を出発して競技終了後選手村に帰村し15時から役員ミーティングを行い、午後の競技が開催される19時に合わせて17時には選手村を出発して、競技終了して帰村するのが23時で、就寝は1時・2時といった強行軍スケジュールであった。

スタジアムは連日超満員で、当然地元選手が勝つとすごい歓声で盛り上がり、他国の選手の活躍にも大歓声が沸いた。ロンドンには

パラリンピックの発祥の地でもあり、障害者スポーツに対する関心が高い国である。連日8万人もの観衆の中で競技ができた選手にとっては一生に一度あるかないかの経験であり感慨深い大会となったと思う。銀メダルを獲得した車椅子の伊藤智也さんはインタビューで「最高に幸せです」気持ち素直に表していた。

4年後のブラジル・リオデジャネイロで開催される大会に向けて、今回の結果を踏まえて、強化体制を見直すとともに、障害者スポーツと一般スポーツを融合する外国のように厚生労働省・文部科学省の垣根を越えたひとつのスポーツとして障害のある人ない人がスポーツ出来る環境にしていきたい。

まだまだ小林さんの思いや伝えたい事など紙上に書ききれないほど語っていただきました。これからも指導者としてパラリンピック競技力向上のためますますご活躍されること願っております。(文責) 校友会理事 西本時子



校友会報発刊募金について(お願い)

校友の皆様からの募金により、年1回の会報発行を続けています。今後ともご協力の程お願いいたします。



編集後記

「日に進まざれば必ず日に退く」

9月8日に行われた校友会総会にて62年卒の日さんが挨拶の中で述べられました。一瞬忘れていた言葉を引き起こされた。

故川島源司先生(元学園長)の格言は若いOBにも引き継がれているのだと感じました。

そして、この言葉は夢・希望・未来・絆の橋渡しとなる高知学園の精神であり、永遠に語られることだと確信した総会でした。

編集委員一同

